

# 「基本動詞ハンドブック」の視聴覚コンテンツの開発

## －例文音声録音作業を中心に－

今村 泰也(国立国語研究所)



### 「基本動詞ハンドブック」とは？

「基本動詞ハンドブック」(以下、ハンドブック)は日本語学習者や日本語教師が基本動詞の理解を深めることができるように、基本動詞の多義的な意味の広がりを図解なども用いてわかりやすく解説したオンラインリファレンスです(図1)。

現在、**17見出し**が公開されており、2015年1月下旬には新たに**18見出し**が追加されます。



図1 ハンドブックのインターフェース

ハンドブックは認知言語学やコーパス研究の最新の知見を取り入れており、視聴覚コンテンツも充実しています。

### さまざまな視聴覚コンテンツ

**コアイメージ**: 見出し語の各語義を提示する前に、語の中核的な意味をコアイメージとして図示しています(図1中央)。

**活用形のアクセント**: 見出し語の**15種類**の活用形をアクセント記号付きで表示(図2)。音声を聞くこともできます。

アクセント型	起伏型
辞書形	来る
ない形	来ない
～なかった	来なかった
ます形	来ます
～ません	来ません
～ました	来ました
～ませんでした	来ませんでした
～とき	来るとき
は形	来れば
意向形	来よう
て形	来て
た形	来た
可能形	こら来る(こられる)
受身形	こられる
使役形	こさせる

図2 「来る」の活用

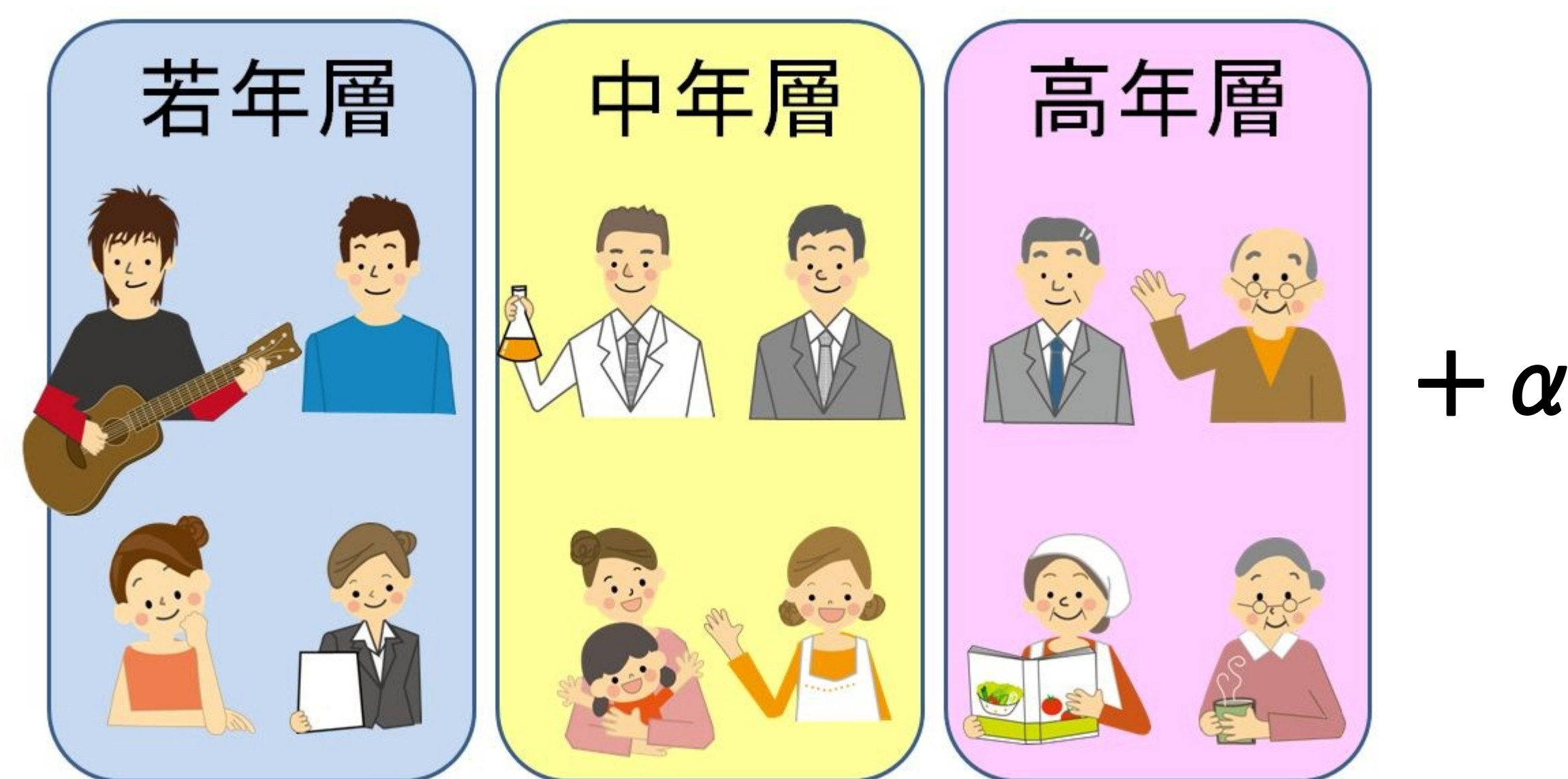
**例文音声**: 語義ごとに6つの例文(執筆者による作例)とコーパスの用例を提示しています。すべての作例には音声が付く、①例文ごとの再生、②語義ごとの一括再生、③見出し語の全例文の一括再生(ランダム再生も可能)ができます。

**イラスト動画**: 意味の理解と記憶を促進するためにイラストによる動画(連画)を用意しています。イラスト動画には音声と字幕も付いています。

### 例文音声録音作業

#### 例文に応じたナレーター

ハンドブックには膨大な数の例文と会話があり(現在公開中の17見出しは**1348**、追加の18見出しは**1038**)、さまざまな年齢層の男女**十数人**で録音作業を行っています。



⇒今までに例のない音声教材・音声データベース

#### 録音・編集作業の手順

- ① 見出し原稿から例文を抽出
- ② ナレーターの割り振り、ナレーター別の例文原稿作成
- ③ ナレーターの手配、収録日の調整、例文原稿の送付
- ④ 録音作業(研究所内スタジオ)
  - ・1回あたりの作業時間は2時間
  - ・例文原稿はA4用紙3~4枚(120文前後)
- ⑤ 1次編集(使用する音声ファイルの選定と簡易編集)
- ⑥ 2次編集(ノイズ除去、文末の無音時間を1秒に統一、音量の調整、WAV→MP3への変換、ファイル名変更等)

録音・編集作業には視覚障害者用デジタル録音図書製作ソフトウェア**PRS Pro**(シナノケンシ株)を使用しています。PRS Proは録音時に無音の長さを検知し、自動的にファイルを分割。編集作業もワープロ感覚で簡単に行うことができます。